

在留邦人の動向

1. 全般的特徴

(1) 在留邦人総数の状況

各在外公館等を通じた調査によれば、平成 15 年 10 月 1 日現在、全世界に在留する日本人の数（長期滞在者と永住者の合計（注））は過去最高を更新する 911,062 人に達した（対前年比 4.5% 増）。仮にこの割合で増加し続けた場合には、2006 年には 100 万人を突破することが見込まれる。

（注）長期滞在者：3 ヶ月以上の滞在者で永住者でない者

永住者：当該在留国より永住権を認められている者

在留邦人の最も多い国は、米国（331,677 人）、次いで中国（77,184 人）、ブラジル（70,782 人）となっている。前年は、第 2 位ブラジル、第 3 位中国であったが、ブラジルが減少した（対前年比 2.2% 減）のに対し、中国では大幅に増加した（対前年比 20.4% 増）ため順位が逆転した。特に中国の伸びは近年著しい。

在留邦人の最も多い都市は、ニューヨーク（62,279 人）、次いでロサンゼルス（42,771 人）、香港（25,211 人）の順となっている。

(2) 地域別内訳

在留邦人が最も多かったのは、昭和 60 年以降連続で北米地域で、前年比 4.9% 増の 369,639 人（全体の 40.6%）であった。

アジアの在留邦人数は前年比 9.9% 増の 206,521 人（全体の 22.7%）となり、過去最高となった。

大洋州、中米・カリブ、西欧、中・東欧、中東についても前年より増加した（伸び率は中・東欧が 11.9% 増と最も高かった）。一方で、南米及びアフリカは、昨年に引き続き減少した。

(3) 男女別内訳

男女別在留邦人数は、平成 11 年に初めて女性の数が男性の数を上回ったが、この傾向は続いており、今回は女性が全体の 51.3% を占めた。地域別では、大洋州、北米、西欧で女性の数が男性数を上回っている。

(4) 永住者及び長期滞在者の状況

永住者数は、291,793 人（全在留邦人数の約 32%）で前年に比し 2.4% 増加した。地域別では、中・東欧（7.1% 増）、大洋州（6.5% 増）で伸びが見られるのに対し、中米（11.1% 減）が減少している。

長期滞在者数は、619,269 人（全在留邦人数の約 68%）で前年に比し 5.5% 増加した。地域別では、中米（22.3% 増）、中・東欧（12.3% 増）の伸びが著しい。

(5) 長期滞在者の職業別傾向

長期滞在者のうち最大の割合を占める民間企業関係者は、前年比 6.1% 増の 341,396 人となった。伸び率では、自由業関係者の伸び（前年比 9.1% 増の 22,037 人）が著しい。